



三ツ境通信
(みつきょう つうしん)



令和2年度 校長室だより
第10号 R3. 3. 25

明日への力 われらの三ツ境

今日は令和2年度の修了式でした。振り返ると今年度は臨時休業、短縮授業、時差登校があったり、耐震化工事で校舎の引越しや教室移動があったり、行事や授業の変更があったりした「大変」な1年でした。やりたかったことができなったり、思ったように進まなかったりして、苦しくつらい思いをしたこともあったと思います。

しかし、「大変」と言っているだけでは前に進むことはできません。学びの保障という言葉とともに、私たち教職員に力をくれたのは、何といっても子どもたちの笑顔や元気な姿、がんばる姿でした。学校での教育活動は教師が児童生徒を指導するという一方向のものではなく、双方向に影響し合うことで共に明日に向かって歩みを進めていくのだと感じた1年でした。

さらに、大きな原動力となり力をくださったのは保護者の皆さまでした。先の見えない状況の中、急に計画が変更という時もありましたが、ご理解ご協力をいただき教育活動を継続できたことにあらためて感謝申し上げます。

また耐震化工事では近隣の地域の皆さまにも多くのご理解とご協力をいただいております。いつも三ツ境養護学校を見守って下さりありがとうございます。

校歌の一節にあるように「明日への力 われらの三ツ境」に向かい今後も教育活動の充実を図ってまいります。



卒業おめでとう！

3月19日に高等部、3月22日に小中学部の卒業式を行いました。

今年は耐震化工事で体育館が使えなかったのですが、慣れ親しんだ学校の敷地内でなんとか実施したいと考え、食堂を会場に設定して行いました。暖かな春の日差しの中、凛とした爽やかな表情の卒業生たちは立派に卒業証書を受け取り巣立っていきました。

感染症対策により会場の人数を制限した実施となりましたが、三ツ境養護学校の教職員一同、学校のあらゆる場所から卒業を祝いエールを送っています。担任、学部の職員、進路や支援の職員など直接指導にあたってきた職員のほか、事務室、給食関係、スクールバス、学校警備員など教育活動を支え見守ってきた多くの職員から「卒業おめでとう」の言葉を受け取りました。

まっすぐ前を見据え、卒業証書を受け取る眼差しには、未来への強い決意が光っていました。学校生活で学んだことを忘れずに、自信をもって自分らしく輝く人生を送ってください。卒業おめでとう！



修了式、離任式

3月25日は学校の1年間を締めくくる修了式でした。会場には集合せず、児童生徒は各教室にいて放送を聞く形での修了式です。また離任式は学部学級単位で実施し、お世話になった先生たちにお礼の言葉を伝えました。

4月からは1学年ずつ進級です。体調に気をつけ、引き続き感染症対策を忘れずに継続し、元気に新年度を迎えましょう。

次年度に向けて ～学校評価～

今年度の学校評価に関する保護者アンケートへのご協力ありがとうございました。また2月25日には学校運営協議会の評価部会においてご意見ご助言をいただいたところです。成果と課題、改善方策等の総合評価については、この後ホームページにも掲載してまいります。

学校で取り組んでいることや情報を発信する力をつけ、評価結果の改善点を次年度につなげていきたいと思えます。引き続きよろしくお願いたします。

学校運営協議会 ～リモート開催～

今年度から始まった学校運営協議会の第3回会議はWeb会議により実施しました。デジタル化は社会全体で進んでおり、三ツ境養護学校においても特にこの1年の変化は大きかったと感じています。動画配信、メール連絡、ホームページからの情報発信、授業でのタブレットやTVモニターの活用、職員業務や会議の電子化等、学校現場に多くの新しい仕組みが導入され活用が進んできました。

まだまだ整備し取り組むべき課題はありますが、できるところからできることをやっというこで、学校運営協議会（コミュニティスクール）の遠隔会議にもチャレンジしま

した。当日は大きなトラブルもなくそれぞれの場所から参加いただき、双方向によるネット会議が実現できました。協議会委員の皆さまのご協力にも支えられ無事に開催でき、今後に向けた手ごたえを得ることができました。

これからの時代を生きる子どもたちにとっても、今後は生活する上でデジタル社会は身近で当たり前ものになっていくと予想されています。引き続きICTの利活用と教育活動の充実に向けて、更なる努力と実践を積んでまいりたいと考えています。

交流および共同学習 ～離れていても～

今年度、感染症拡大防止の中で計画変更や中止となり残念だったことはたくさんありましたが、その都度どうすれば目的を達成できるだろうかと考えて代替となる方法を工夫してきました。地域との交流や共同学習もその一つです。これまで実績を積みながら続けてきた交流が、新型コロナウイルス感染症で消えてしまわないだろうかと不安に思うこともありました。

しかし今年度は交流を続けてきた学校に書面を届ける等の交流ができました。昨年度ポッチャで交流をした中学部から東野中学校へ生徒の様子を伝えたり、これまで様々な交流してきた旭高等学校には高等部の作業学習の様子を伝えたりしました。

また毎年絵本の読み聞かせで来校し交流を続けてきた二俣川看護福祉高等学校には、児童生徒たちによる「私のおすすめ本」一覧を届けました。後日、今度は高校生たちから「私のおすすめ本」が届き、新たな交流の形ができました。また二つ橋小学校からはコロナ禍以前の清掃活動へのお礼を6年生からいただきました。

離れていても共に生きる社会の実現に向けて、これからも一緒にがんばっていきたいと思えます。あたたかく笑顔あふれる対面での交流ができるようになる日を楽しみにしています。